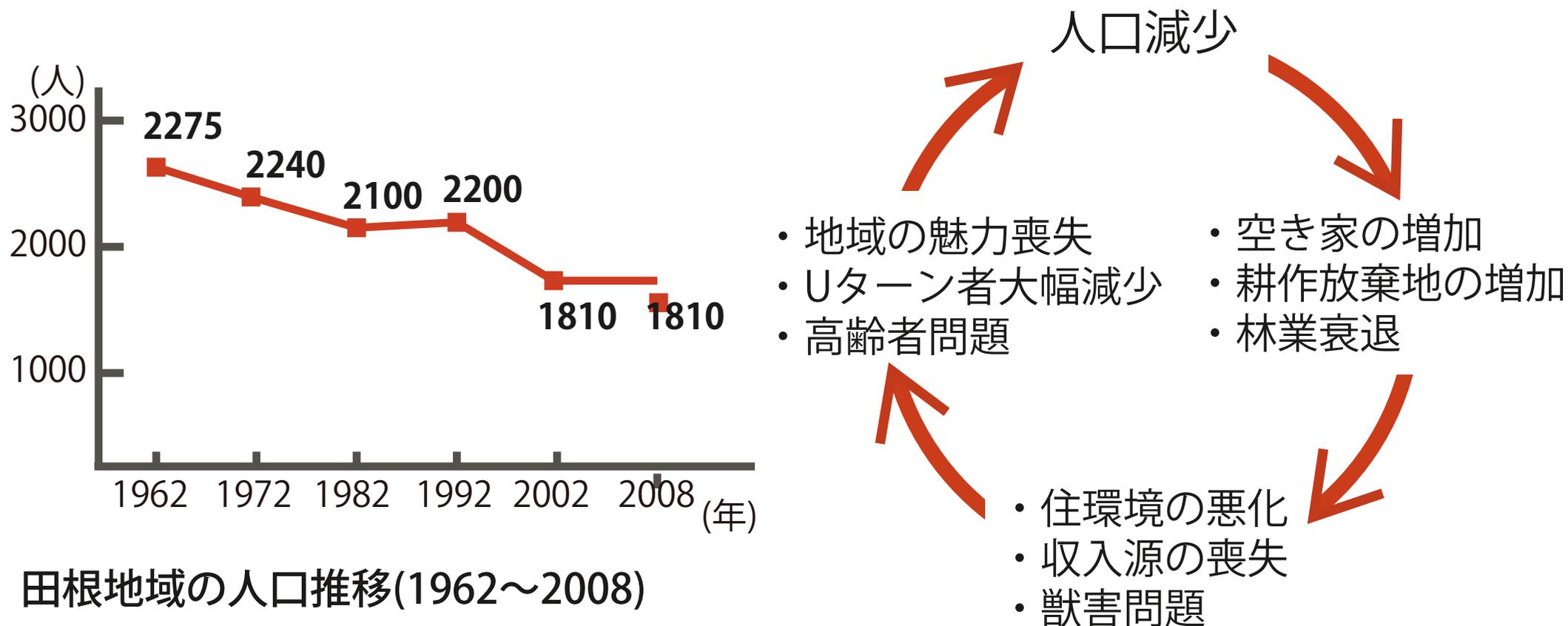


古民家のハイブリッド改修手法による 地域活性化研究プロジェクト



背景：過疎化と林業衰退、獣害問題

田根地域が抱える悪循環



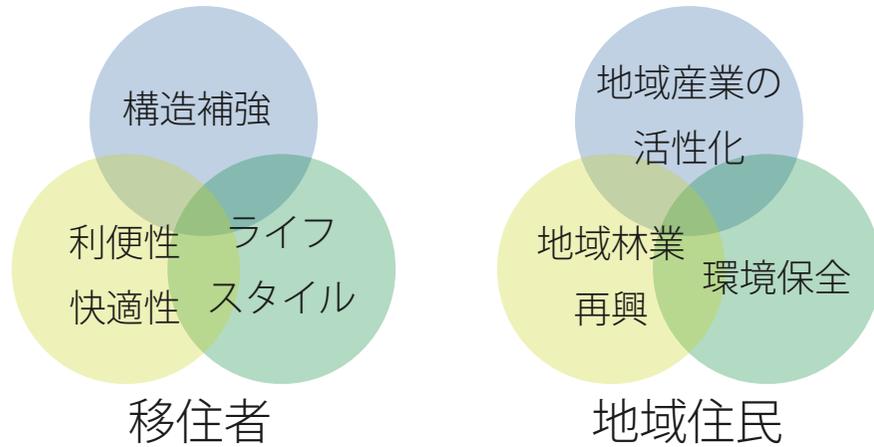
田根地域の人口推移(1962～2008)

まちづくりにおける田根地域

平成 18 年 2 月に、旧浅井町・旧びわ町・旧長浜市が合併し新長浜市となって
市内最初の地域づくり協議会が田根地区 (14 集落) で設立された

意義

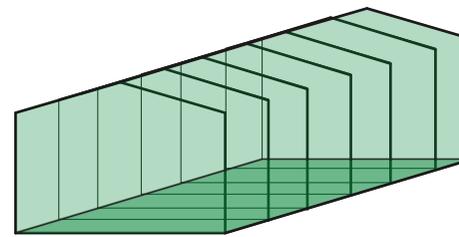
移住者と地域住民双方へのメリット



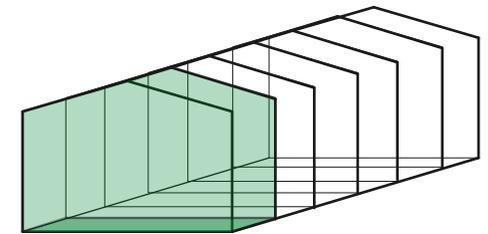
- 地域資材による地方再生
(地域産業／林業)
- 間伐材の活用による森林保全
- セルフビルドにより、現代のライフスタイルに合わせた改修が可能

ベニヤ工法によるメリット

- 古民家の様式を残したまま構造補強や意匠面の改修が可能
- 低コスト



古民家(新築) 3000万円～

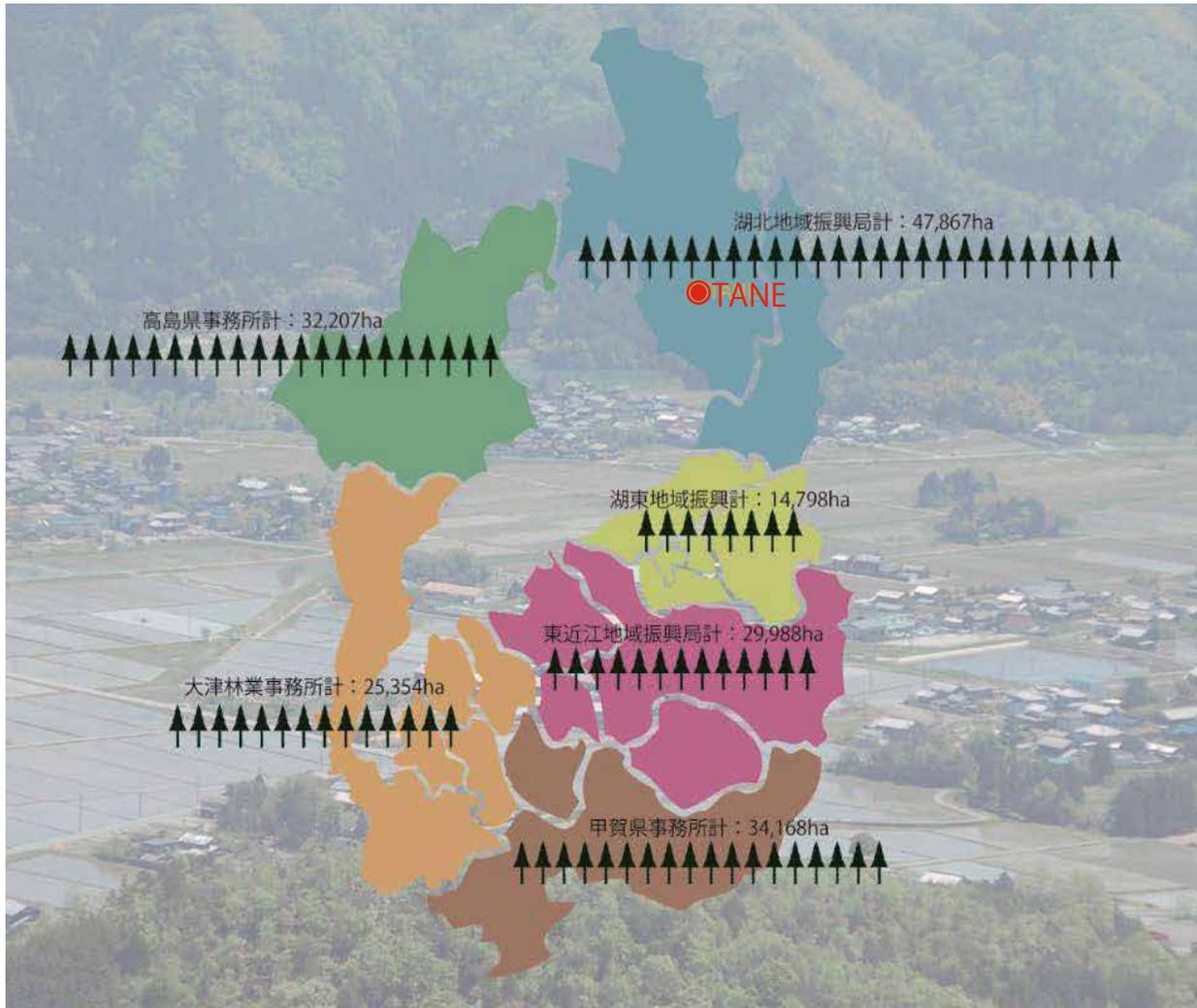


ベニヤ工法 150万円～400万円

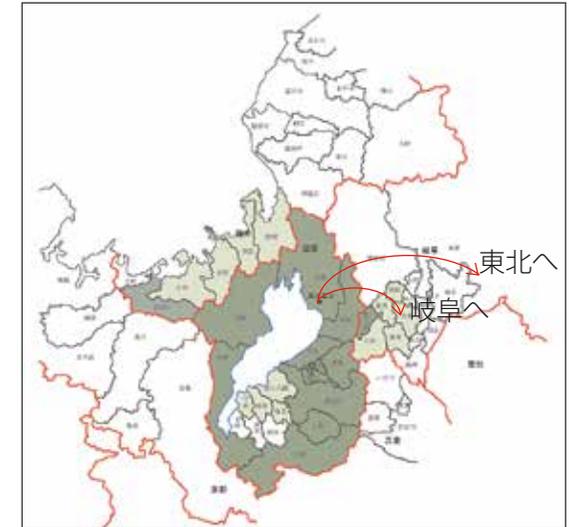
▶ 地域材＋新しい活用方法 → 建物・地域の問題解決へ

地域材の活用：田根のケース

滋賀県森林資源



ほとんどの県産材は他地域で使用されており、資材の地産地消を行うことで輸送及び環境コストの低下につながる



▲ 材木の出入について



▲ 田根のブランド「谷口杉」

実績：ベニヤ合板＋地元材料

ハイブリッド工法・事例 ～ミャンマー・マノヘリ村～



建設途中



完成式

改修案

+ 意匠

パネル工法を用いて既存の柱や壁等に意匠を施すことで、古民家の形状を維持しながらライフスタイルにマッチした改修を行う



+ 構造

ベニヤパネルを使用した家型のユニットを古民家の構造に入れこむことで、構造的に弱い部分を補強する



夏の活動概要

ベニヤ工法を活用したワークショップ

① トイレ建屋

用途：仮設トイレカバー

材料：12mm ベニヤ



② 秘密基地

用途：子供用遊具

材料：9mm ベニヤ



活動の様子

学生、地域住民、子供を巻き込んだ建設

① トイレ建屋

組み立て：大学生 5 名、地域住民数名



② 秘密基地

組み立て：大学生 5 名、子供 15 名



成果と課題

地域活性化におけるベニヤ工法の可能性

【特性】

- ①素早くできる
- ②安くできる
- ③専門家が現場にいなくても出来る



【成果】

- ・右記のような特性を体感した
- ・汎用性が高かった
- ・合板を作りたいとおっしゃってくれた地域の人たちも現れた

【課題】

- ・パーツの種類数が多かったために組み立てが複雑化してしまった
- ・結合に金物を使ったため、ベニヤ工法の特性が感じづらかった
- ・古民家への応用が出来なかった

ベニヤ工法の検討

研究室の卒業生が行っている「2×20×200×2000」プロジェクトと連携して、ベニヤ工法の古民家的展開方法を模索しました。

2 x 20 x 200 x 2000プロジェクト

2名により 20 m²の面積の家を 200 分で 2000 ドルのコストで作り上げる



ベニヤ工法の古民家的展開



実際に手を動かし、ベニヤ合板を用いて古民家模型を作成した。

ベニヤ工法の検討

安価で汎用性の高いベニヤ合板を古民家に展開することは有用か？可能か？

地域の人達からのインタビュー



■一番よく聞かれた言葉

- 空間的なアプローチをすることで地域が盛り上がってほしい
- わくわくするような空間が欲しい
- 田根の材料を使いながら、みんなのできるような事をやりたい
- お金を生み出せるような仕組みを考えていきたい

ベニヤ合板を使った空間的面白さの抽出



ベニヤ合板を用いた家具や棚などは海外で実施事例が多く、日本的にどう解釈するのがポイントであると考えます。

まとめ × これから

【反省・感想】

- 当初志していた古民家をベニヤ合板で改修することは構造上の難問から解けなかった
段階的に考えていく事で、私達の解答を見つけ出したい。
- 田根の合板を作ることへ地域の人達が初めて意欲を見せた
- ソフトとハード両方を相互に考えることがあまりできなかった
- 協働していただけそうなネットワークを構築できた

まとめ × これから



地元の中高生達と協力をしながら、ベニヤ工法で古民家の改修を行う。
そして、移住者を誘致するようなシステムと設計と同時に考えていき、
限界集落に対する新たな提案をしたいと考えている。



ご清聴ありがとうございました